

服を好きなように

小五

「なんだかスカートって苦手だな。」そう感じ始めたのは、小学校三年生のころでした。

わたしは、スカートをあまりはきません。スカートのひらひらと女の子らしい形がいやだからです。小さいころから、「なぜ女子はスカートをはかないといけないのだろう。」とぎ間に思っていました。だから、近所の中学生が、女子はスカート、男子はズボンをはいて通学するすがたを見て、「いやだな。」と思っていました。

そんなとき、うれしいニュースを聞きました。公立高校や市内の中学校で、女子がスカートとズボンの両方から、

自由に制服を選べるようになったというものです。わたしはスカートが苦手なので、「うれしい。早く中学校に行きたいな。」と中学校生活を楽しみに思えるようになりました。

でも、心配なことが一つあります。せっかく中学校の制服のルールが変わったのに、近くの中学校に通う生徒の中にズボンをはいている女子を見たことがないので。やっぱり女子はスカート、男子はズボンという朝の光景は変わりません。

女子生徒の中にはきつとスカートを苦手に思っている人もいるはずなのに、どうしてズボンを選ばないのでしょいか。きつとそれは、一人だけズボンだとか何か言われるのではないか、変な目で見られるのではないか、といった不安が原因だと思えます。女子生徒がズ

ボンを選べないのは無理ありません。わたしたちは他の人が自分の思う「ふつう」から外れるとその人を「変」だと思ってしまうことが多いようです。

中学校の制服のルールが見直されたように、市内でも、日本でも、あるいは世界でも、男性・女性の区別が見直され、だれもが生きやすい制度やルールができています。しかし、それだけで、本当に解決といえるのでしょうか。例えば二〇二一年の東京オリンピックの女子重量挙げでは、トランスジェンダーの選手が出場しました。生まれた時の性別は男性でしたが、オリンピックのルールを守り「女性」としてオリンピックピックに出られたのです。ところが世界からは女性より男性の方が力が強いから不公平だというひ判の声が上がりました。同じような例はアメリカの

水泳大会でもあったようです。確かにずるいと思う気持ちも分かりますが、その選手をそんな重たい気持ちもあります。かん単に答えは出せないのかも。しれません。

制服を変えてもひ判やへん見がなくならないのはなぜでしょう。それは、区別と差別をとりちがえていることが多いからかもしれません。こう衣室、トイレなど区別が必要な場面と、男はズボン、女はスカートといった必要のない差別が、わたしたちの周りには数多くあります。この区別と差別を正しく理解せずにいる人が世界にはまだ多くいるのです。それでは、差別をしてしまわないためにはどうしたらよいのでしょうか。それは世界の一人一人が、となりにいる人の個性をみとめ合うことです。自分

とちがう個性をみとめ、それをそんな重し楽しむということだ。

今、SDGsのジェンダー平等で社会が、世界が男女らしさについて見直し始めました。わたしたちの周りでも中学校の制服で女子がズボンをはいてもよいと制度としてみとめられるようになりました。ルールが変わった今、次に必要なのはわたしたちの「考え」を変えることなのです。最近ではランドセルの色がカラフルで自由に選べるようになり、わたしたち小学生は友達が多様な色のランドセルをせ負っていても変に思うことはありません。それと同じように見た目の性別に関わらず、自分の着たい服を着て、ヘアスタイルも、メイクも自由に楽しめばいいと思います。そして全ての人が「それ、いいね」とみとめ合い、歩みよることが

大切なのです。

そのためにもわたしもできることを始めようと思います。まずは近くにいる友達や家族の個性をみとめること、そして、その大切さを周りに広めていきたいと思っています。

あと二年後になった中学校生活。ズボンをはいた女子生徒がいたら「それかわいいね」「似合ってるね」「いいじゃん」と心から言ったり、言ってもえたりする時代になるとうれしいです。

これからは

「どんな服を着てもいいんだよ。

服を好きなように。」